

事例38 題材「保育と子どもの福祉」

## 乳幼児の言葉の発達

家庭 家庭基礎 普通科・第1学年  
石川県立金沢辰巳丘高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校普通科1年生は、外国語コース1クラス、芸術コース1クラス、普通コース3クラス、計5クラスからなる。4月、家庭基礎の最初の授業で行ったアンケートによると、中学校で保育園実習を行ったことや、絵本、幼児のお菓子、おもちゃを作ったことが印象に残っている、よく覚えていると答えた生徒が、多いクラスで67%、少ないクラスで41%であった。(全クラス平均50%)このことから、保育分野の学習に対する興味・関心は比較的高いと思われる。しかし、授業で保育を学習することに興味・関心はもっていても、普段の生活の中で高校生が乳幼児と触れ合う機会は少なく、保育への関心は薄くなりがちである。乳幼児を理解するためには、保育園実習を行うことが効果的であると思うが、本校は学校の立地条件により、授業の中で保育園実習を行うことが難しい状況である。そこで、できる限り授業の中で「生きた教材」に触れさせたいとの思いから、インタビューや視聴覚教材を使った学習を通して、保育への関心を持たせ、乳幼児を理解することを目指したい。さらに、新聞記事などの身近な教材を利用して、現代の子どもが育つ環境について理解を深め、これから社会の課題についても考えさせたい。

### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ、子供を生み育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの健全な発達のために、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 学習への興味・関心を持たせるための教材の工夫

保育人形（実物大）、1歳児から5歳児が描いた絵（実物）、0歳児から6歳児と母親・保育士の会話（生の声をテープに録音したもの）、絵本など、乳幼児を身近に感じることのできる教材を準備し、生徒の興味・関心をひくようにした。

##### ② 学習定着のための工夫

乳幼児や母親・保育士の会話を聞き、ワークシートに書き込んだ後、発達の様子を確認する作業を行うことで学習の定着を図った。また、会話の中から周囲の大人の接し方について生徒自身が考え、気づくようにした。さらに、書き込みやすいワークシートの作成につとめた。

### 3 指導の実際

題材の指導計画（総時数8時間）

第一次 子どもの育つ力（3時間）

1時 発達段階とからだの発育・運動能力の発達

2時 乳幼児の言葉の発達 ----- 本時

3時 基本的生活習慣と遊び

第二次 子育てと親の役割（3時間）

第三次 子どもの育つ環境（2時間）

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
言葉の発達について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テープを聴いた後、ワークシートの項目に従って答える。</li>   <li>・ワークシートに特徴を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳から6歳までの年齢で聞き取った言葉、気がついたことについて発言させる。</li>   <li>・年齢別に特徴を説明する。</li>   <li>・テープの中で、現れなかった言葉の特徴について、補足説明する。</li>   <li>・言葉の発達には個人差があることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の言葉の発達について理解する。 【知識・理解】 (ワークシート) (ペーパーテスト)</li> </ul>

C-1 指導案

C-2 ワークシート

#### 4 成果と課題

##### (1) 学習への興味・関心を持たせるための教材の工夫

保育の授業後、生徒が教卓の周りに集まってきて、教師が持ってきた教材をもう一度触ったり、自分の経験や今日の学習について話をする姿が見られた。乳幼児の学習への関心がうかがえ、印象に残る教材の重要性を感じた。また、そのような生徒に支えられて授業もなごやかに、温かい雰囲気で進めることができたと思う。保育の学習にこの温かさはとても大切だと思う。

アンケート結果より、関わることができる乳幼児が普段周りにいる生徒が少ないと、また、自分の乳幼児期のことを聞いたことが「あまりない」か「ない」生徒が半数以上を占めていることから、授業で乳幼児のことを学習するということが貴重な経験になっていると考えられる。アンケート結果や、「子供の成長、発達を聞いたことはあまりなく、何歳から言葉を話すかなど分からなかったけど、実際に子供の声を聞いてみたら理解できました。」というような生徒の感想に見られるように、実際に乳幼児が話している声を聞くという今回の授業は、発達を理解する上で効果があったと思われる。具体的に乳幼児を理解できる教材をいかに準備するかが今後の授業でも大切になってくる。

##### (2) 学習定着のための工夫

乳幼児や母親・保育士の会話を聞き、ワークシートに書き込んだ後、発達の様子を確認する作業を行うことで、学習内容を定着させることができたと思う。また、会話を聞くことで、教師が期待する以上のことを生徒は感じているのが感想から分かる。課題としては、50分の授業で6年間の言葉の発達を学習するという盛りだくさんの内容であるため、授業内容を消化することに気をとられがちであった。社会性の発達とからめた授業展開を考え、より乳幼児を理解できるようにさせたい。また、乳幼児と話すのは難しいと感じている生徒へのアプローチも重要だと考える。

D-1 アンケート結果

D-2 生徒の感想